

# 住宅・リフォーム業界 若手現場監督教育の重要性とは

## 好調な住宅市場ではあるが・・・

コロナ禍によって新たな住まいの購入、リフォームを検討する人が増え、業績の回復が鮮明な住宅業界ですが、その一方で、現場監督の人手不足が深刻化しています。人材紹介会社経由で求職者にアプローチしても、反応があるのはほんの数%程度、また、新入社員が入社しても3年以内の離職率が高い傾向にあります。そのため、人手不足は一向に解消されず、今いる現場監督の負荷はますます大きくなるばかりです。そして、このような状況は、以下の事態を招きかねず、早急に対処が必要となります。

### 現場監督の負荷増大による悪影響例

- ・全ての現場を回るため、工事は職人任せとなり、工程、品質などの管理が不徹底
- ・お施主、近隣住民の対応がおざなりになり、元請け企業への不満が蓄積
- ・現場監督の労働時間が増え、人件費が高騰
- ・現場監督は疲弊し、退職者がさらに増えることで既存社員への負荷が増加

このように、現場監督の負荷が大きくなることは、施工不良やクレーム、さらなる人手不足を招くこととなり、いずれも業績に深刻な影響をもたらしかねません。しかし、人材の採用を急ぐことは簡単ではなく、また、業務効率化のためにIT化を推進しようにも、その機能化には時間を有してしまいます。そのため、まず取り組むべきは、今いる若手社員の教育を手厚くすることで、その定着と能力強化を図り、社員全体の負荷を軽減していくことではないでしょうか。では、具体的にどのような教育を進めていけば良いのでしょうか。

## 若手現場監督の教育方法

若手現場監督には以下のような問題が生じがちです。

### 若手現場監督の問題（悪循環）例

- ・目の前にある業務に追われ、優先順位付けをして取り組めない
- ・お施主様や職人対応、現場管理、打合せ、その他業務に「ムダ」が多い  
例：ムダ話、同日で同一現場に複数回訪問、社内業務（書類出し忘れなど）のために帰社、事前準備不足による会議・打合せの長時間化等
- ・専門知識修得の時間が確保できず、その結果、業務に悪影響をもたらす  
例：工事の段取りが悪い、職人に技術的な指導ができない

このように非効率的な時間に追われると、自身にかかる負荷を大きくする悪循環に陥りがちです。そのため、まずは以下の教育を施し、どのようにして業務を進めたら成功する(①自分が楽になる②勉強時間捻出でさらに成長する)のか、具体的方法を示す事が重要です。

### 教育内容例（時間管理能力強化）

- ①上手な時間管理法の修得
- ②時間の使い方棚卸し（ムダ時間の排除）
- ③各種対人折衝力強化（ムダ対応の削除）

例：対お施主、近隣住民、職人の簡潔コミュニケーション法、打合せ・会議時間短縮法、クレーム発生時の対応法など

なお、現場で確実に実践できるレベルとするためには、実技訓練（ロールプレイング）にてその修得度を高めることが必要不可欠です。弊社研修では、業界精通の講師が担当し、その指導をお手伝いできます。是非、ご興味・ご質問のある方は、下記からご連絡下さい。

> お問い合わせはこちら

